福祉

視覚障害者対象教養講座「ホッとワーク」

レザークラフトクラブさんの協力で、革細工でポーチを作ります。気軽にご参加ください。

日時　11月24日(火)午前10時～正午
材料費　800円
場所・申込・問合せ先　中央公民館☎072・433・7222

視覚障害者のための文化教室「芙蓉の花を作ろう」

染色したペーパーで花を作りロウをコーティングして独特な光沢と量感を出す「ろうの花」で、一輪挿しに飾る芙蓉の花を作りましょう。

日時　12月2日(水)午後1時～3時
場所　市民福祉センター4階大会議室
対象　市内在住で身体障害者手帳を所持する視覚障害者のかた
講師　中央公民館クラブ「ろうの花」
定員　30人(付添い含む、定員になり次第締切)
参加費　600円
締切　11月20日(金)
申込・問合せ先　点字図書室☎072・433・7080

ゲートキーパー初級養成研修

ゲートキーパーとは、自殺の危機を示すサインに気づき、悩みを聴き、支援機関につなげ、見守る人のことです。

研修では、自殺の現状やゲートキーパーの役割について学びます。

日時　11月18日(水)午後1時30分～3時
場所　職員会館多目的室
講師　深尾泰さん(NPO法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター事務局長)
定員　15人(定員になり次第締切)
締切　11月16日(月)
※保育あり(無料)
申込・問合せ先　障害福祉課☎072・433・7012

盲ろう者通訳・介助者養成研修受講生募集

視覚と聴覚に障害のある盲ろう者を支援するために、通訳・介助を行う「盲ろう者通訳・介助者」の養成研修を行います。

日程　12月9日(水)・14日(月)・23日(水)、1月8日(金)・15日(金)・22日(金)・25日(月)・28日(木)、2月5日(金)・10日(水)・19日(金)・22日(月)・25日(木)、3月1日(月)～5日(金)・8日(月)～10日(水)
対象　全て受講できるかた
定員　60人(定員を超えた場合は選考)
受講料　無料(テキスト代実費負担)
※受講申込書は市障害福祉課で配布します。
締切　11月25日(水)必着
場所・申込・問合せ先　〒537-0025　大阪市東成区中道1-3-59　府立福祉情報コミュニケーションセンター☎06・6748・0587

保険

新型コロナウイルス感染症に関する傷病手当金の対象期間が延長されました

市の国民健康保険被保険者(給与などの支払いを受けているかたに限る)が新型コロナウイルス感染症に感染した場合、または発熱などの症状があり感染が疑われた場合に、その療養のため労務に服することができなかった期間の給与などの支払いを受けられないまたは、減額された場合は傷病手当金が支給されます。詳しくは、お問合せください。

対象期間　本年1月1日～9月30日に加え、10月1日～12月31日の間で、労務に服することができなかった期間も対象
支給期間　労務に服することができなかった日から起算して3日を経過した日より、就労を予定していた日数分
申請方法　申請書・振込先口座のわかるもの(通帳のコピーなど)を添えて郵送で申請書は、ホームページからダウンロードができます。
申請・問合せ先　国保年金課☎072・433・7273

ジェネリック医薬品を利用してみませんか

ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは、これまで使われてきた新薬(先発医薬品)の特許が切れた後に販売される医薬品で、新薬と同じ有効成分を同量含み、同等の効き目があると国に認められた医薬品です。

新薬より開発費用が少ないため薬の価格が安くなり、自己負担も軽減されます。

短期間だけジェネリック医薬品に切り替える「お試し調剤」から始めることもできます。まずは医師や薬剤師にご相談ください。

【切り替え時のご注意】
・先発医薬品と色や大きさ、形などが異なることがあります。
・すべての薬にジェネリック医薬品が対応しているわけではありません。また、薬局によっては、取扱っていないものもあります。
・ジェネリック医薬品に変更しても、自己負担額が変わらない場合もあります。

問合せ先　大阪府後期高齢者医療広域連合☎06・4790・2031、国保年金課☎072・433・7273

原爆被爆者のかたへ見舞金を支給

申請期間　11月10日(火)～12月10日(木)午前8時45分～午後5時15分(土・日・祝日除く)
対象　11月10日現在、本市に住民登録があり、被爆者健康手帳をお持ちのかた
金額　1万2000円
持物　被爆者健康手帳・預貯金通帳・印鑑
申請・問合せ先　障害福祉課☎072・433・7012

貝塚市障害者作品展

市民のかたに障害や障害者への理解を深めていただき、障害者の社会参加を促進することを目的に、障害者作品展を開催します。

期間　12月2日(水)～9日(水)午後5時
※24時間見学可
場所　イヅミイチシェルピア・ドゥ1階アトリウム
入場　無料
問合せ先　障害福祉課☎072・433・7012

ほっスピタル・かいづか

(46) 糖尿病と眼

問合せ先　市立貝塚病院
☎072－422－5865

近年、糖尿病患者は増加傾向にあり、国内患者数は約1,000万人、予備軍を含めると約2,000万人になります。糖尿病は合併症が怖い病気で腎臓、神経、そして眼に現れることが多くこれらは三大合併症と言われています。

眼の合併症は、糖尿病の初期ではほとんど自覚症状がないため軽視されがちですが、進行すると失明につながる深刻な状態に陥ってしまいます。実際に糖尿病を放置しているかたが少なくなく、毎年多くのかたが合併症で視力を失っています。糖尿病は成人の失明原因として大きな比率を占めているのです。

さて糖尿病の主な眼の合併症は糖尿病性網膜症です。眼の奥には網膜という神経の膜があり多くの毛細血管があります。高血糖の状態が長期間続くと毛細血管がつまり眼底出血などを起こし、さらに網膜の酸素不足が起こり、本来は正常網膜には無い出血しやすい新生血管が発生し硝子体出血や網膜剥離などを起こします。他には白内障、角膜障害、黄斑症、屈折・調節異常、虹彩毛様体炎(こうさいもうようたいえん)、血管新生緑内障、外眼筋麻痺、虚血性視神経症などの合併があります。

眼の合併症は、糖尿病と診断された時から定期的な眼科検査を受け糖尿病と眼科の適切な治療を続けていれば進行防止が可能です。

当院では糖尿病性網膜症などの診断に必要な検査機器が充実しており、治療として必要なレーザー光凝固術、抗VEGF硝子体内注射、硝子体手術などを行っています。

糖尿病と診断されたら必ず定期的に眼科を受診しましょう。

診療局長・眼科主任部長　藤井節子

もう一度マスクのつけ方を見直しましょう

今、マスクは着けておられますか。夏の暑い時期は熱中症予防のため外せるときは外しましょうという話もありました。冬でも息苦しいのには違いありませんので外せるときは外してもらってもいいと思います。

強調したいのは「せっかく着けるなら、その時はちゃんと着けましょう」ということです。マスクはインフルエンザや新型コロナウイルス感染症感染予防の基本的な手段の一つですが、ちゃんと着けていなければ効果は半減、いやそれ以下になります。

通常の不織布マスク、立体型のマスク、手作りマスクなど種類は問いませんが、鼻・頬・あごに密着するように着けるというのが大事です。よく見かけますが、鼻がマスクから飛び出ているのはいただけません。また頬の部分が十分に密着していない場合もよく見かけます。これらはひもの長さがあっていないことにも原因があるようです。その対応の一つとして小児用とか女性用という表示があるサイズの小さいマスクを利用するのも良いでしょう。また、ひもの長さを調節するためにマスクフックとかアジャスターという名前で売られている商品を利用するのも良いでしょう。後者は耳たぶの上端がひもで擦れて傷になっているかたにもおすすめです。

問合せ先　貝塚市医師会☎072－423－4130